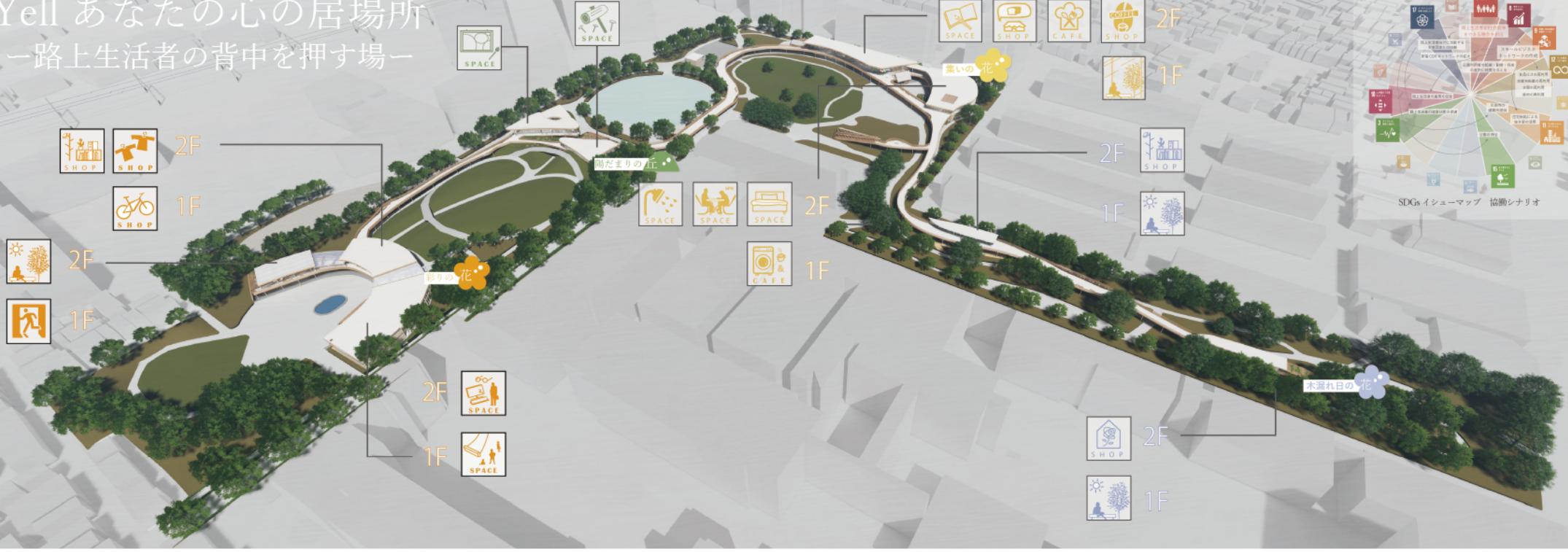


Yell あなたの心の居場所 一路上生活者の背中を押す場

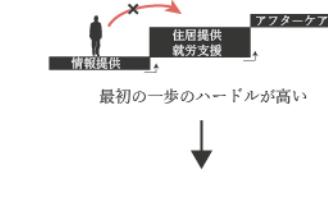
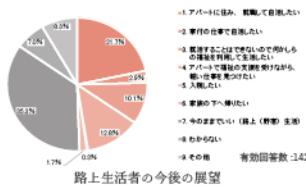


01.研究動機

東京都は2024年までに「自立の意思を持つ全てのホームレスを地域生活へ移行」を目指すとしている。この方針を契機に、新宿中央公園や宮下公園（現 MIYASHITA PARK）では開発と共にホームレスが排除された。しかし、その公園の近辺では排除されたホームレスが未だ路上生活をしているのを見かける。私は、都市の再開発により排除されていくホームレスが現在も居場所を探し、街の隙間で暮らしていることに疑問を感じ研究を始めた。

02.問題提起

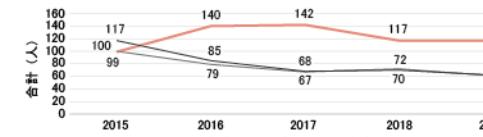
社会復帰を志す約50%の路上生活者が、様々な理由で社会復帰をする決心がつかないことがわかった。従って路上生活者に一方的に支援を行うのではなく、路上生活者が社会復帰できる機会を創出することが必要であると考えた。



路上生活者が自ら社会復帰をしようと決心することでの次のステップに進むことができる

03.対象敷地

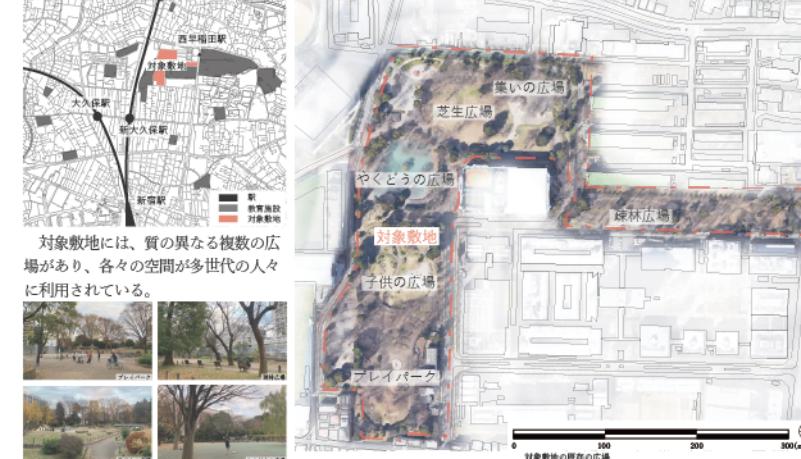
東京都内で新宿区の路上生活者が最も多い。新宿区内では新宿駅周辺と新宿中央公園周辺、東京都立戸山公園（大久保地区）に多いとされる。彼らが社会復帰する機会を創出するためには、路上生活者から親しみやすい場が最適であると考え、東京都立戸山公園（大久保地区）に選定した。



東京都内の路上生活者数（上位3地区）

新宿駅周辺 新宿中央公園周辺 東京都立戸山公園（大久保地区）

対象敷地周辺の新宿区大久保地区は、人口の約27%を外国人で占める。また教育機関が多く、スポーツや文化芸術活動が活発に行われ多文化共生のまちと謳われる。



対象敷地には、質の異なる複数の広場があり、各々の空間が多世代の人々に利用されている。

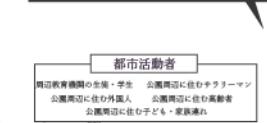


04.プログラム

対象敷地で路上生活者の社会復帰できる機会の創出を行う上での「近隣住民や公園利用者にメリットがあること」「現在の公園機能を損ねないこと」「経済的に持続可能であること」の課題を以下の手段で解決を行う。

■フェーズ1

公園利用者は既存の公園機能を利用することができます



現在の公園機能を損ねずに補足する機能を配置

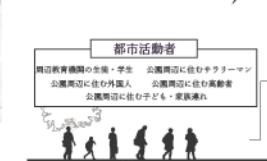
路上生活者



■フェーズ2

大久保という立地を生かし小さなビジネスがチャレンジできる場を創出

小さな活動に触ることで刺激を受ける⇒副業や転職、将来の選択など



小さな活動に触れたり元路上生活者やNPOと交流し社会復帰できる機会を図る

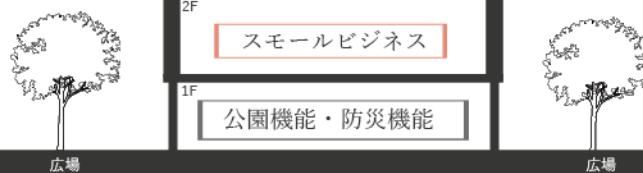


路上生活者



05.建築に求められるもの

建築と公園の共存



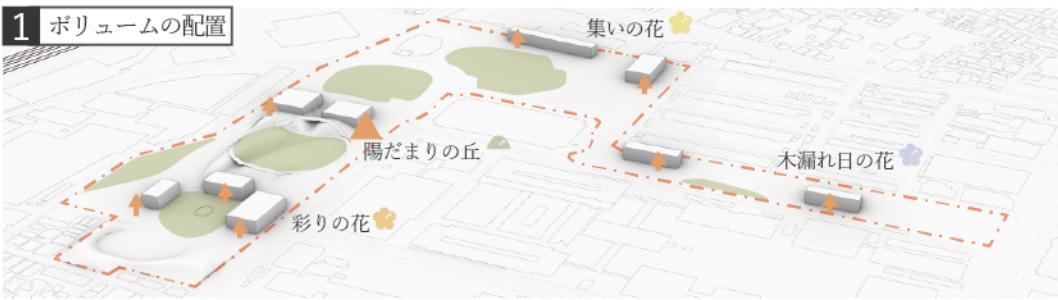
公園利用者を2階に誘い
活動を促進させること



06.建築と公園の共存

既存の公園の各広場や動線を保持し、提案建築と公園との共存を図った。既存の公園機能を補完するように建築を設計し、既存の公園機能を保つつつ、新たな公園の価値を創出した。

1 ポリュームの配置

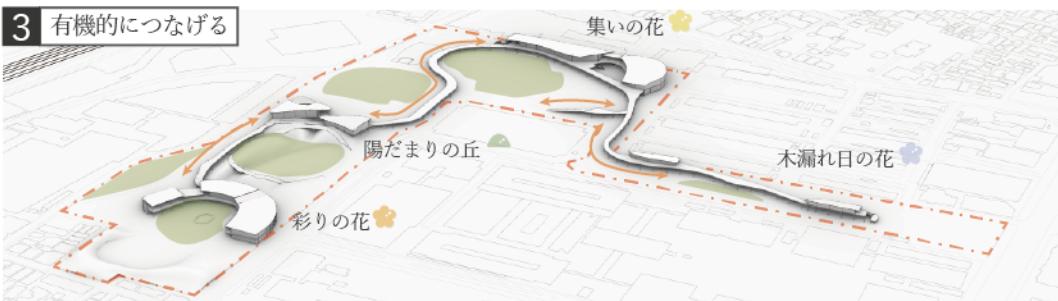


既存の公園の広場を保持しつつポリュームを配置することで公園機能を損ねずに建築を形成できる。

2 ポリュームの配置



3 有機的につなげる



各建築を有機的につなげることで建築と公園や建築同士のつながりを生み出すことができる。

07.花の蜜を吸う小鳥

都市活動者や路上生活者などの公園利用者を2階へ誘い、活動を促進させるために「花の蜜を吸う小鳥」をモチーフにデザインと空間体験のストーリーを同期させた。これにより、花と小鳥の関係のように事業者と公園利用者の双方的なメリットを創出することができる。

■小鳥の翼と花脈をモチーフにしたデザイン

【翼のフレーム】



小鳥の翼の動きをモチーフに木のフレームで構築した。

翼のフレームのつかわれ方



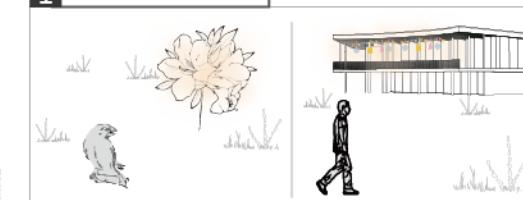
【花脈の梁】



花びらに巡らされた花脈モチーフに梁下の化粧梁として構築した。

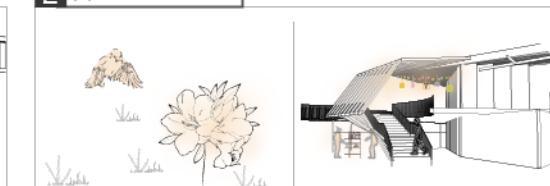
■花の蜜を吸う小鳥のストーリー

1 地面から花を見つける



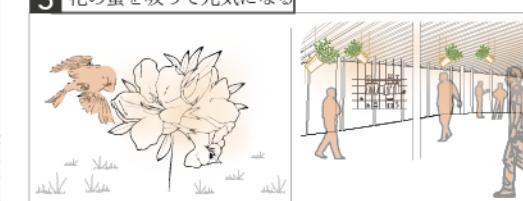
公園の広場から2階の活動を感じる

2 翼で花に飛んでいく



翼のフレームによって2階へ誘われる

3 花の蜜を吸って元気になる



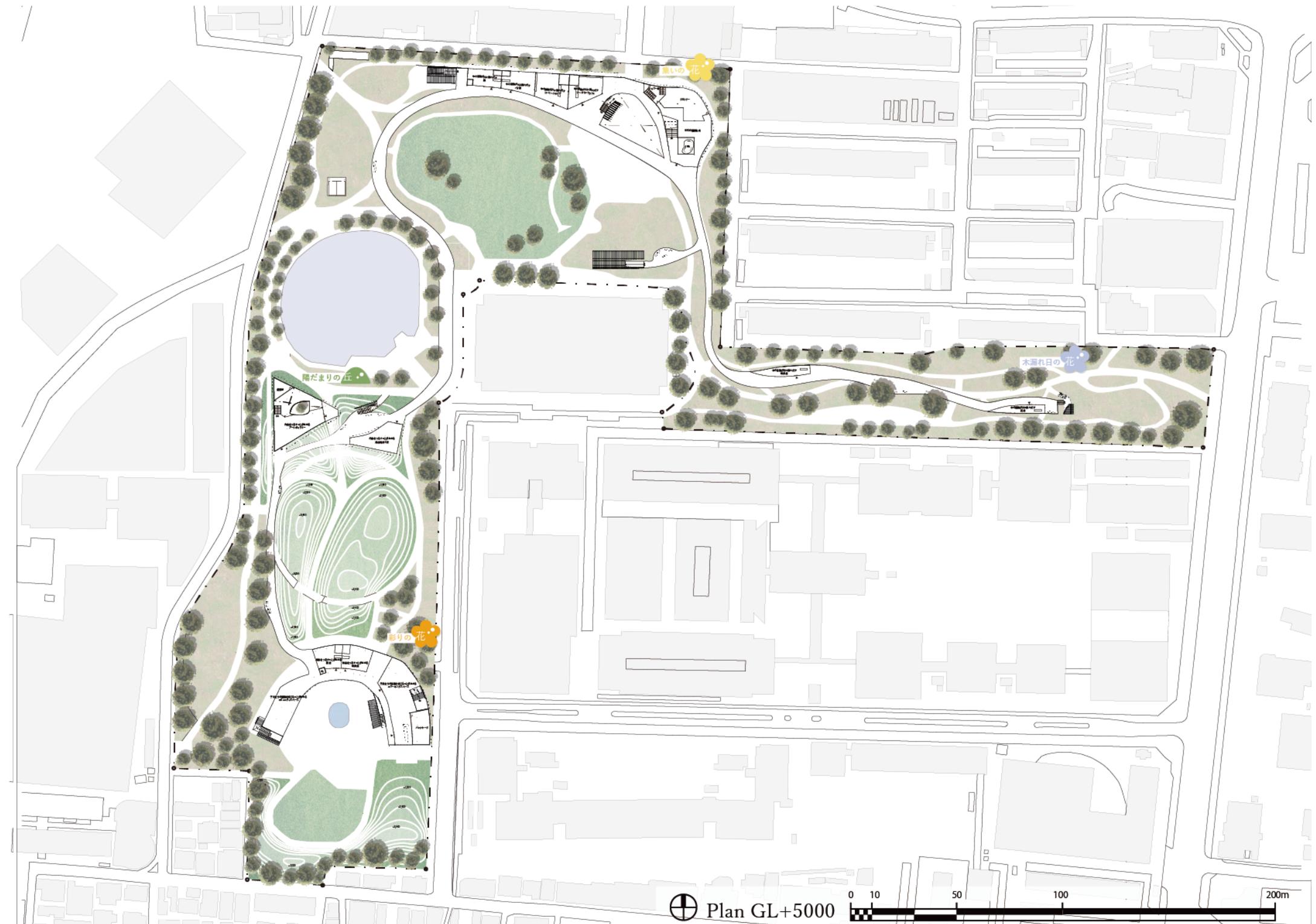
花脈につぶされた活動によって刺激を受ける

4 様々な蜜を吸ってさらに元気になる



有機につながる建築を通して多くの刺激を受ける

08.平面図



Plan GL+5000

0

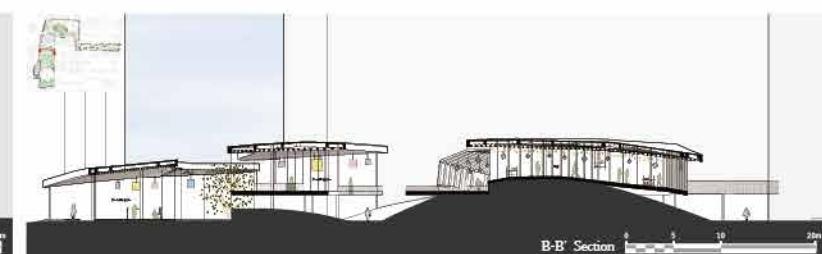
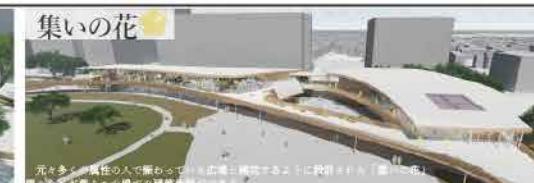
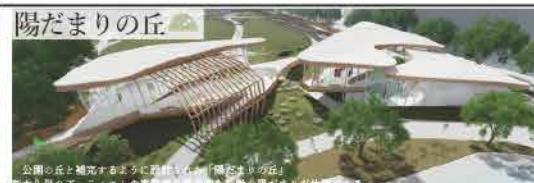
10

50

100

200m

9.都市活動者の空間体験



10.路上生活者の心の居場所ストーリー

1.既存の公園機能を利用



元々親しんでいたこの公園のトイレや水場を利用しながら二階の活動空間を眺める。

7.社会復帰・社会貢献し地域を活気づける



2.翼のフレームで炊き出しをもらう



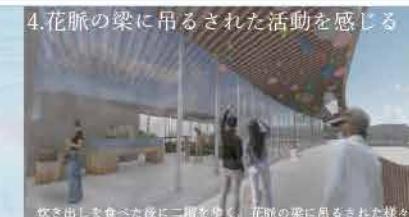
翼のフレームにNPOがテントを張り炊き出しを行って、ここで炊き出しをもらう。



3.翼のフレームに誘われる



炊き出しをもらったついでに二階にあるベンチで炊き出しおどべる。



炊き出しを食べた後に二階を歩く。花脈の梁に吊るされた活動を感じる。



テラスへ車椅子で上がりながら元路上生活者やNPOの人と交流し、社会復帰するきっかけを得る。



各種のイベントで行政機関や支援団体に頼り、支援を受ける。

この建物によって路上生活から次のステップへ進み出す。社会復帰するきっかけを得ることができる。また、路上生活者だけでなく都市活動をする多くの人の背中を押す。心の居場所が創出される。